



# 第68期 報告書

2017年4月1日～2018年3月31日

日本アビオニクス株式会社

証券コード：6946

## ○ 株主の皆様へ



### Contents

株主の皆様へ	1
セグメント別の概況	3
トピックス	5
連結財務ハイライト	6
連結財務データ	7
株式の状況	9
会社の概要	10

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第68期（2017年4月1日から2018年3月31日まで）の事業の概況等についてご報告申し上げます。

#### 【当期は新製品の投入等の諸施策を展開し、民需市場の開拓に努めました】

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、宇宙・防衛市場では、昨年度に引き続き防衛省の海外調達の水準が高く、国内調達は低調に推移しました。また、民需市場においては、スマートフォン等情報機器に使用される電子部品の小型化に対応する生産設備が好調に推移しました。

このような状況の中、当社グループは、防衛製品の原価改善に努めるとともに、海外民需市場の開拓を進めて、新製品の投入を進めるなどの諸施策を展開しました。

なお、東海旅客鉄道株式会社（以下、「JR東海」といいます。）のリニア中央新幹線計画に協力するため、プリント配線板の製造を分担している連結子会社の山梨アビオニクス株式会社の敷地の一部をJR東海に譲渡し、当該敷地から建物等を収去する補償としてJR東海から補償金を収受すること、およびプリント配線板事業を沖電気工業株式会社グループへ事業移管することとし、移管を順次進めてまいりました結果、沖電気工業株式会社グループへの事業移管が当初の予定通り進捗したことから、山梨アビオニクス株式会社は、本年3月をもって生産を停止いたしました。

### 【売上高は減少したものの、当期純利益は3期連続黒字を確保】

当期の連結業績につきましては、原価改善等に努めたものの売上高が減少したことから、営業利益は減少し、経常損失が増加しました。しかしながら、JR東海から当期受領した補償金を特別利益に計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は6億6百万円となりました。

#### 【当期連結業績】

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
当期 (前期比)	18,707 (12.8%減少)	△709 (7億29百万円減少)	△764 (7億4百万円減少)	606 (9億3百万円減少)

剰余金の配当につきましては、なお累積損失が存在することから、まことに遺憾ながら普通株式、第1種優先株式および第2種優先株式は無配とさせていただきます。

### 【各セグメントの競争力強化・差別化をはかり、中期経営計画の達成に取り組んでまいります】

今後の見通しにつきましては、米国の政策動向や各国の保護主義的な動き、地政学リスクの懸念など、当社を取り巻くマクロの社会・経済環境は、不確実性が常態となっており先の見えない時代がこれからも続くものと予想されます。

プリント配線板事業につきましては、計画通り2018年3月をもって生産を停止いたしました。今後は、情報システムと電子機器の2つのセグメントで競争力強化・差別化をはかり、顧客価値提案力の強化、技術基盤の再構築化、QCD（品質・コスト・納期）の改善等を行い、中期経営計画の達成に取り組んでまいります。

#### 【次期連結業績予想】

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
次期業績予想 (前期比)	18,500 (1.1%減少)	200	150	0

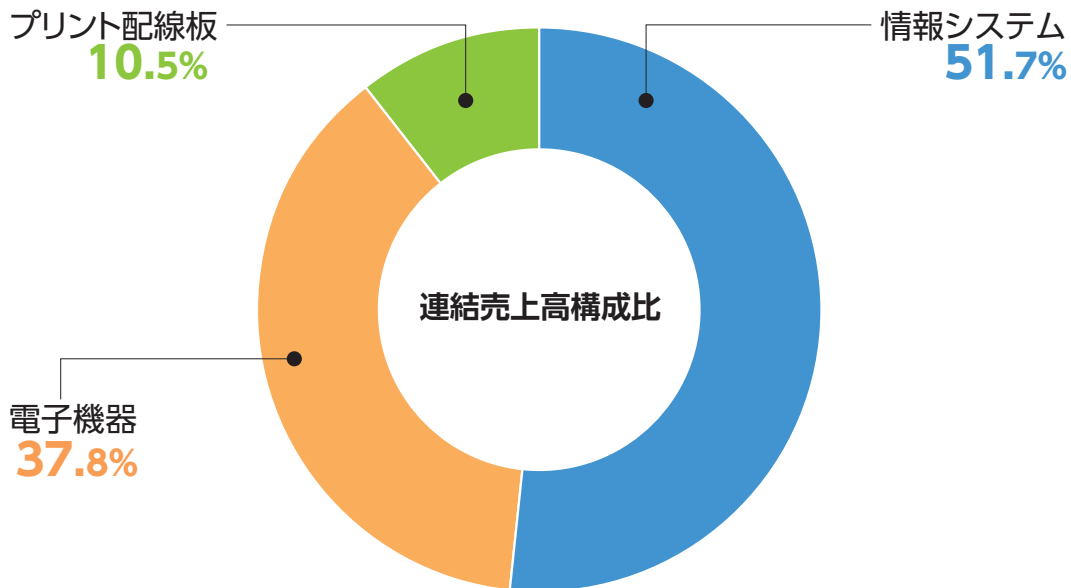
(注) 業績予想の数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

2018年6月

代表取締役執行役員社長

秋津勝彦

# ○ セグメント別の概況



## 情報システム

連結売上高

**96億74百万円**

(前期比20.4%減少)



—防衛省の国内調達が低調に推移している影響および、計上時期のずれの発生に伴い売上高は減少しました。

セグメント損失

**7億74百万円**

(前期比8億20百万円悪化)



—諸経費削減に努めたものの、売上高の減少および原価率の悪化により、減少しました。



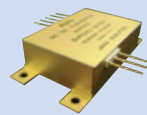
指揮・統制装置



表示・音響装置



電波応用装置

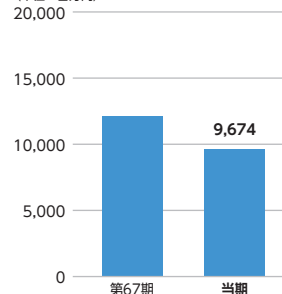


ハイブリッドIC

主要製品：誘導・搭載関連装置、表示・音響関連装置、指揮・統制関連装置、ハイブリッドIC

## 情報システム連結売上高推移

(単位：百万円)



## 電子機器

連結売上高

**70億75百万円**   
(前期比6.7%増加)

—電子機器は、赤外線機器の売上がほぼ横ばいに加推移したものの、接合機器がアジア地域を中心にスマートフォン等情報機器に使用される電子部品の生産設備の需要を取り込み、売上高は増加しました。

セグメント利益

**5億82百万円**   
(前期比75百万円改善)

—売上高の増加により、セグメント利益が増加しました。



パルスヒート電源  
TCW-DP100



全自動シーム  
封止装置



Thermo HAWK  
H9000

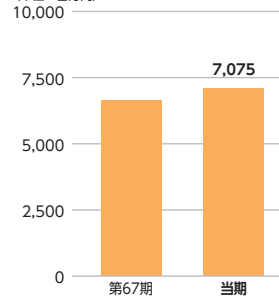


Thermo Flex F50  
シリーズ

主要製品：接合機器、赤外線機器

### 電子機器連結売上高推移

(単位：百万円)



## プリント配線板

連結売上高

**19億57百万円**   
(前期比26.5%減少)

—2016年7月7日の事業移管の公表後、移管先への受注切替えが進み、売上高は減少しました。

セグメント損失

**5億16百万円**   
(前期比15百万円改善)

—原価低減に努めた結果、若干改善しました。

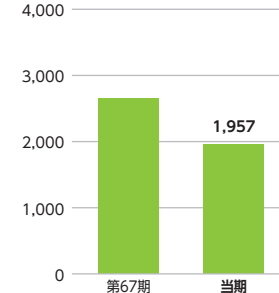


高信頼性フレックスリジッド配線板

主要製品：プリント配線板

### プリント配線板連結売上高推移

(単位：百万円)



## ▶ 赤外線サーモグラフィカメラ「Thermo Flex F50シリーズ」の販売を開始

本製品は、本体から脱着可能なカメラヘッドによるアングルフリー機構を採用し、カメラヘッドを取り付けたまま上下へ角度を回転させて高い位置を測定したり、取り外して設備の裏側や狭小な空間の測定を可能にしました。これにより、従来のカメラでは作業への負担が大きかったプラント維持管理、中古住宅の性能評価、電子部品・電子基板の熱評価の分野で、リスクの可視化や作業の効率化に大きく貢献します。

### 製品の特長

- 「見上げる」「見下ろす」「潜り込む」「取り付ける」「中に入れる」など自由なスタイルでの撮影が可能
- 耐熱環境温度性能70℃のカメラヘッドにより用途拡大
- タッチパネルとピント合わせ不要なフォーカスフリー広角レンズにより、ストレスフリーな快適操作を実現



Thermo Flex F50  
シリーズ

## ▶ IOT対応接合機器「NRW-IN400P」と「QC-450」の販売を開始

自動車産業では部品製造や品質管理の要となる「接合技術」の更なる高品質化が求められています。このような中、自動車電装部品の製造・組立における、接合プロセスの「見える化」要求にこたえるため、高精細な出力制御で信頼性の高い溶接を実現する溶接電源「NRW-IN400P」と、接合の信頼性を高める高機能溶接モニタ「QC-450」を発売しました。

### 製品の特長

- 「NRW-IN400P」は、自動車電装部品の製造ラインに最適な、遠隔操作ユニット「プログラムBOX」を採用し、また「最大127STEPの任意通電設定」、「出力周波数選択式」により、様々なワークに最適な条件での接合を実現します。
- 「QC-450」は、最大6種のセンサによる多彩な信号出力により、接合作業の高度なモニタリングを実現します。また、計測値の推移をグラフ化するランチャート機能により、電極や設備の劣化を早期に把握できます。
- 両製品を組み合わせることで、変位による通電停止や温度による電流量切替など多彩な制御が可能になり、より正確で均質な仕上がりを得ることができます。

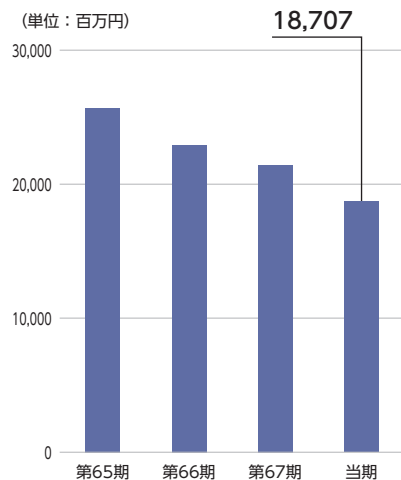


高信頼性インバータ式溶接電源  
NRW-IN400P

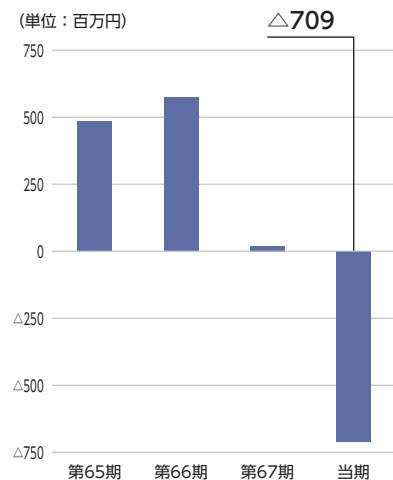


高性能溶接モニタ  
QC-450

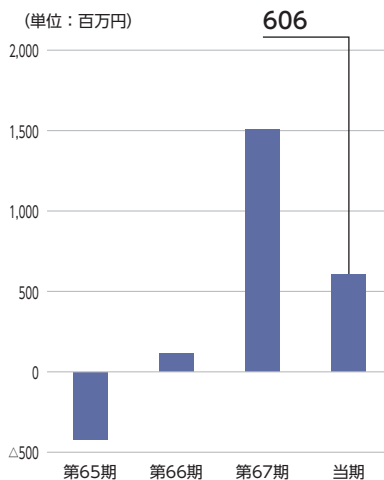
売上高推移



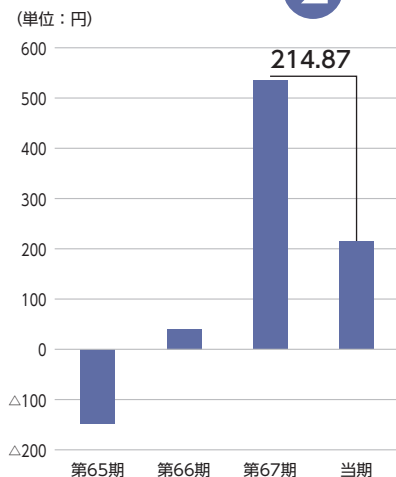
営業損益推移



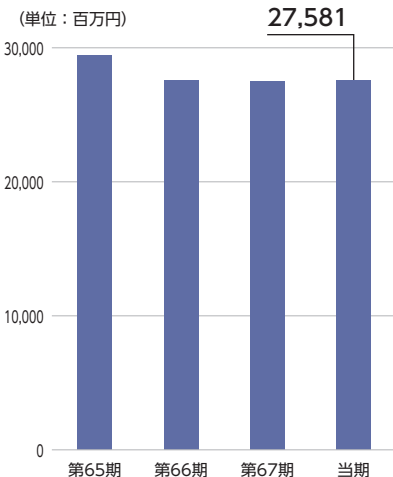
親会社株主に帰属する  
当期純損益推移



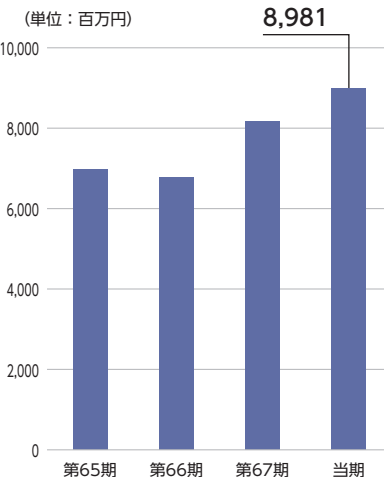
1株当たり当期純損益推移



総資産推移



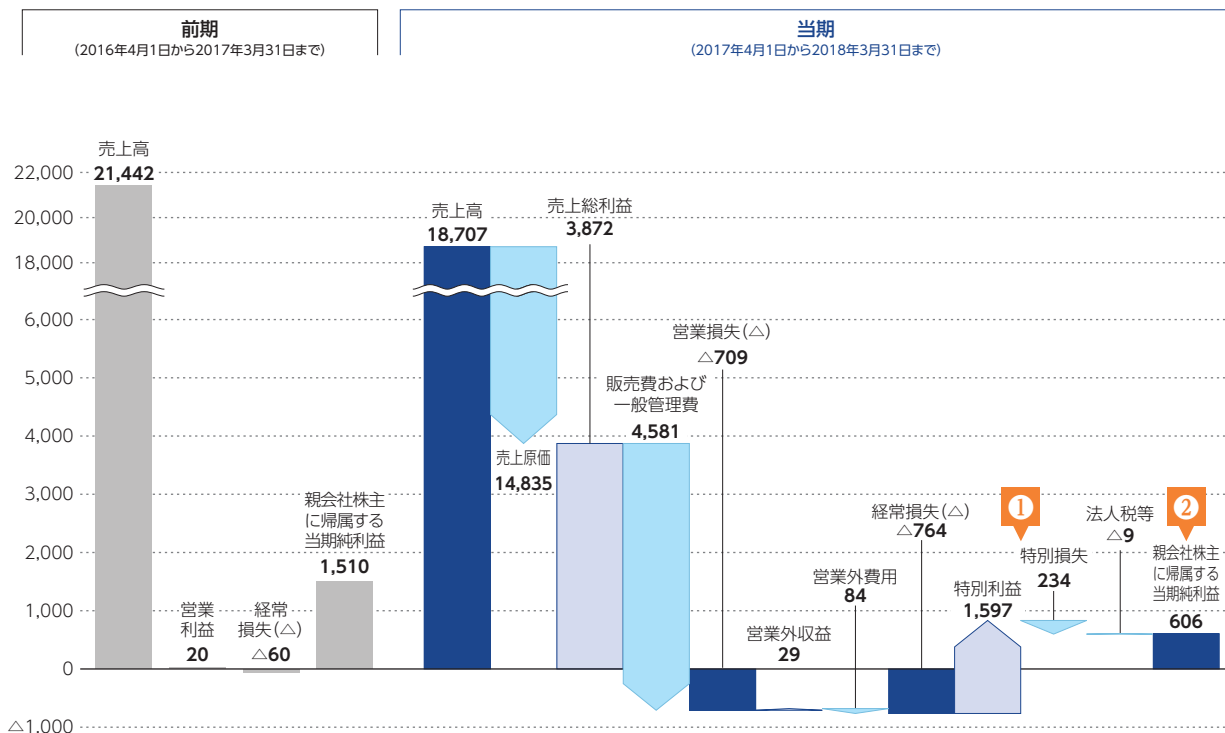
純資産推移



(注) 当社は2017年10月1日付で普通株式につき10株を1株とする株式併合を行っております。第65期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純損益を算定しております。

# ○ 連結財務データ

## 連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



### POINT

#### ① 特別利益・特別損失

プリント配線板を製造している連結子会社の山梨アビオニクス株式会社の敷地の一部をJR東海へ譲渡し、建物等を取去する補償として受領した補償金等15億97百万円を特別利益に計上し、プリント配線板事業の移管に係る費用等2億34百万円を特別損失に計上いたしました。

#### ② 親会社株主に帰属する当期純利益

売上高の減少により営業損失および経常損失を計上したものの、JR東海から取去する資産等に対する補償金の一部を特別利益として計上した結果、6億6百万円となりました。

#### ③ 資産合計

現金および預金が増加したことにより、前期比88百万円増加の275億81百万円となりました。

#### ④ 負債・純資産合計

負債合計は買掛金の減少等により186億円（前期比7億9百万円減少）となりました。また、純資産合計は親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことにより、利益剰余金等が増加したことから、前期比7億97百万円増の89億81百万円となりました。

#### ⑤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

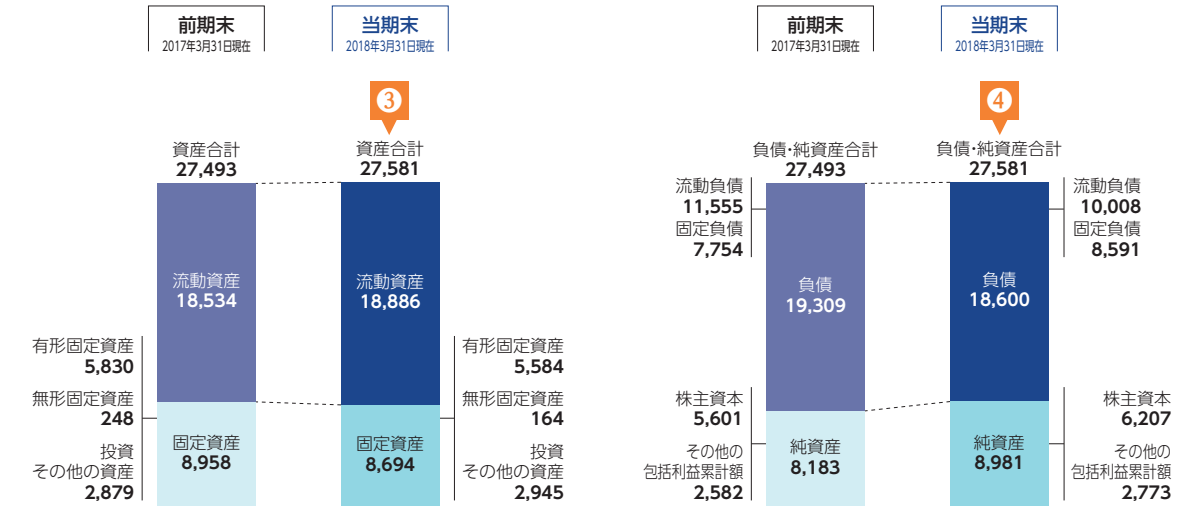
事業移管損失引当金の減少および法人税等の支払いにより、営業活動の結果使用した資金は、14億36百万円となりました。

#### ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

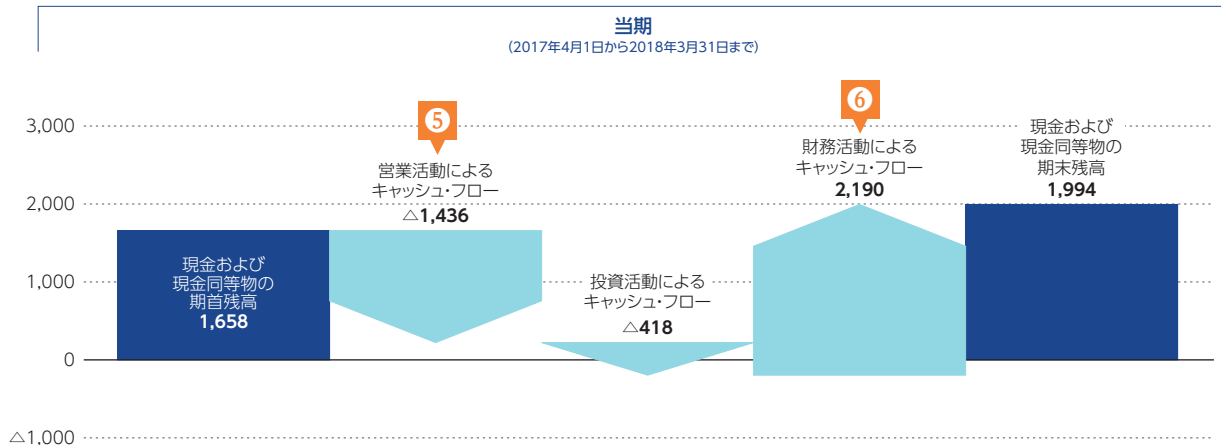
主に借入金の借入による収入等により、財務活動の結果獲得した資金は、21億90百万円となりました。



## 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



当社は2017年10月1日付で普通株式につき10株を1株とする株式併合を行っております。

	普通株式	第1種優先株式	第2種優先株式
(1) 発行可能株式総数 8,000千株	7,600千株	4,000千株	1,500千株
(2) 発行済株式の総数 5,130千株	2,830千株	800千株	1,500千株
(3) 株主数	3,575名	1名	1名

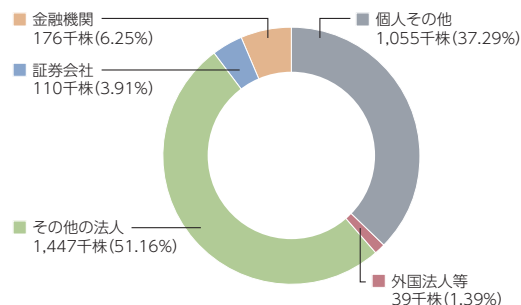
(注) 第1種優先株式および第2種優先株式は、日本電気株式会社が全株所有しております。

(4) 大株主の状況 (普通株式上位10名)

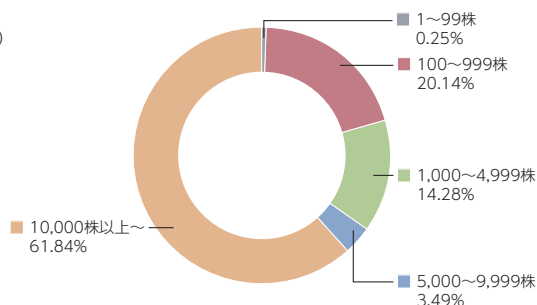
株主名	所有株式数 千株	持株比率 %
日本電気株式会社	1,415	50.11
株式会社三井住友銀行	44	1.56
楽天証券株式会社	31	1.13
日本アビオニクス従業員持株会	30	1.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	25	0.90
松井証券株式会社	25	0.89
三井住友信託銀行株式会社	24	0.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	22	0.79
日本証券金融株式会社	22	0.79
住友生命保険相互会社	21	0.77

(注) 持株比率は、自己株式(5,822株)を控除して計算しております。

(5) 所有者別分布の状況 (普通株式)



(6) 所有株数別の状況 (普通株式)



## 会社の概況 (2018年3月31日現在)

- 商号 日本アビオニクス株式会社
  - 英文商号 Nippon Avionics Co., Ltd.
  - 設立 1960年4月8日
  - 資本金 58億95百万円
  - 従業員数 810名 (連結) 710名 (単独)
  - 証券コード 6946
  - 営業所および工場 (2018年6月26日現在)
- |        |                    |
|--------|--------------------|
| 本 社    | 東京都品川区西五反田八丁目1番5号  |
| 横浜事業所  | 横浜市瀬谷区本郷二丁目28番2    |
| 新横浜事業所 | 横浜市都筑区池辺町4206番地    |
| 中部支店   | 名古屋市中区丸の内三丁目17番6号  |
| 西日本支店  | 大阪市淀川区西中島一丁目11番16号 |

## 子会社 (2018年3月31日現在)

- 山梨アビオニクス株式会社  
山梨県南アルプス市宮沢568番地
- 福島アビオニクス株式会社  
福島県郡山市待池台一丁目20番地

(注) 2018年3月をもって、山梨アビオニクス株式会社は生産を停止いたしました。

## 役員 の 状 況 (2018年6月26日現在)

### 取締役

代表取締役	秋津勝彦
取締役	上田勇
取締役	竹内正人
取締役	延岡健太郎
取締役	望月愛子
取締役	伊藤茂樹
取締役	大久保智史

(注) 延岡健太郎、望月愛子の両氏は、社外取締役であります。  
伊藤茂樹、大久保智史の両氏は業務執行を行わない取締役であります。

### 監査役

監査役 (常勤)	鈴木智雄
監査役 (常勤)	篠田亨
監査役	千原真衣子
監査役	大貫篤繁

(注) 鈴木智雄、篠田亨、千原真衣子の各氏は、社外監査役であります。

### 執行役員

執行役員社長	秋津勝彦 ※
執行役員常務	井川裕三
執行役員常務	上田勇 ※
執行役員	新井孝男
執行役員	橋本隆
執行役員	竹内正人 ※
執行役員	山後宏幸
執行役員	室伏剛
執行役員	松木徹
執行役員	中谷直人
執行役員	井田徹

(注) ※の執行役員は、取締役を兼務しております。

## 株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
その他必要のあるときはあらかじめ公告します。
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先)  
(電話照会先) 0120-782-031  
(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
- 公告の方法 当社ホームページに掲載します。  
<http://www.avio.co.jp/company/index.htm>  
ただし、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

## 当社ホームページのご案内

ホームページにて最新のIR情報等をご覧いただけます。

<http://www.avio.co.jp/>

日本アビオ

検索



### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- 証券会社に口座を開設されている株主様  
⇒ 口座のある証券会社宛にお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様  
⇒ 上記電話照会先をお願いいたします。

 日本アビオニクス株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田八丁目1番5号  
TEL. 03-5436-0600 <http://www.avio.co.jp/>

 UD  
FONT

 ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C013080

 VEGETABLE  
OIL INK